専売特許条例の公布（1885年）動力織機発明の志を立てる（十代の頃）

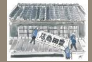
Promulgated the Patent Monopoly Act (1885)
Resolved to invent a power loom (in his teens)

豊田式木製人力織機

豊田商店設立（1895年）

（1902年に豊田商会に改称）

Establishment of Toyoda Shoten (1895)
(Renamed as Toyoda Shokai (1902))



豊田商店

豊田織布工場設立（1900年）

（1929年に豊田押切紡織（株）に改組）

Establishment of Toyoda Shokuhu Kojo (Oshikiri Weaving Mill) (1900)
(Reorganized as Toyoda Oshikiri Boshoku (Spinning and Weaving Works, Ltd.) (1929)

豊田押切紡織

豊田織布菊井工場設立（1909年）

Establishment of Toyoda Shokuhu Kikui Kojo (Kikui Weaving Mill) (1909)

豊田織布菊井工場

豊田自動織布工場設立（1911年）

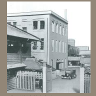
（1914年に豊田自動紡織工場に改称）

Establishment of Toyoda Jido Shokuhu Kojo (Automatic Weaving Mill) (1911)
(Renamed as Toyoda Jido Boshoku Kojo (Automatic Spinning and Weaving Mill) (1914))

豊田自動織布工場

豊田自動紡織工場を改組、豊田紡織（株）設立（1918年）

Establishment of Toyoda Boshoku Corporation (Spinning and Weaving Co., Ltd.) (1918)



豊田紡織本社事務所

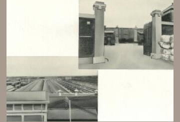
1 豊田佐吉による織機の発明、トヨタグループの発祥

Invention and completion of automatic loom by Sakichi Toyoda

豊田佐吉は、十代の頃、国や社会への貢献を志し、1890年23歳の時に初めて人力織機で特許を取得し、1924年57歳で究極の目標であった“完全なる自動織機”を完成させ、その後も人生のすべてを織機の発明に捧げます。佐吉の長弟平吉の「豊田織布工場」、次弟佐助の「豊田織布菊井工場」とともに、1911年にはここ栄生の地に豊田自動織布工場を設立し、1918年には豊田紡織（株）に改組します。こうしてトヨタグループの発祥となる会社が誕生します。

（株）豊田紡織廠設立（1921年）

Establishment of Toyoda Boshoku-Sho (Spinning and Weaving Works, Ltd.) in Shanghai (1921)



上海豊田紡織廠

G型自動織機完成（1924年）

Completion of Type G automatic loom (1924)

（株）豊田自動織機製作所設立（1926年）

（後に（株）豊田自動織機に改称）

Establishment of Toyoda Automatic Loom Works, Ltd. (1926)
(Later renamed as Toyota Industries Corporation)

豊田自動織機製作所

豊田佐吉（57歳）

2 G型自動織機の完成、（株）豊田自動織機製作所の設立

Completion of Type G automatic loom and Establishment of Toyoda Automatic Loom Works, Ltd.

「豊田織布工場」は主に開発資金面で、「豊田織布菊井工場」は営業的試験工場として佐吉の発明をサポートする役割を担います。また、佐吉の片腕であった西川秋次とともに上海に設立した「（株）豊田紡織廠」も、資金面で佐吉の発明を支えていきます。そして、佐吉は1924年にG型自動織機を完成させ、これを製造・販売する会社として（株）豊田自動織機製作所を設立します。

（株）庄内川染工所設立（1928年）

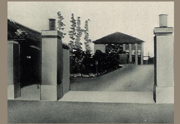
Establishment of Shonaigawa Senkosho, Ltd. (1928)

中央紡織（株）設立（1929年）

Establishment of Chuo Boshoku, Ltd. (1929)

庄内川レーヨン（株）設立（1932年）

Establishment of Shonaigawa Rayon, Ltd. (1932)



中央紡織

3 事業の多角化、関係会社の設立

Diversification of business, establishment of affiliated companies

1918年に設立した豊田紡織（株）は、（株）豊田自動織機製作所の設立後、紡織事業の領域を拡大していきます。1928年に、より付加価値の高い加工綿布を製造するために「（株）庄内川染工所」を設立。翌年には、紡織の一貫生産体制を整えるために、東洋棉花（株）と共同で「中央紡織（株）」を設立。さらに、豊田織布押切工場の法人化、「庄内川レーヨン（株）」による人絹糸の生産など、多彩な事業を展開していきます。

東洋棉花（株）設立（1920年）

（後に（株）トーメンに改称、豊田通商（株）と合併）

Establishment of Toyo Menka Kaisha, Ltd. (1920)
(Later renamed as Tomen Corporation and merged with Toyota Tsusho Corporation)

加藤商業（株）設立（1923年）

（後に加商（株）に改称、豊田通商（株）と合併）

Establishment of Kato Shogyo (Commerce) Co., Ltd. (1923)
(Later renamed as Kasho Co., Ltd. and merged with Toyota Tsusho Corporation)

4 東洋棉花（株）（後の（株）トーメン）、加藤商業（株）（後の加商（株））の設立

Establishment of Toyo Menka (later Tomen) and Kato Shogyo (later Kasho)

大正時代になると商社の活動が本格化し、当時の主要取引商品であった綿花をはじめ、輸出入品の取り扱いが増加しました。後に豊田通商（株）と合併する（株）トーメンは「東洋棉花（株）」として、加商（株）は「加藤商業（株）」として、いずれもこの時代に設立されています。

5 豊田綱領の制定とグループの結束強化

Establishment of the Toyoda Precepts and intensified union of group companies

豊田佐吉は1930年10月30日に生涯を閉じました。この時、豊田系のグループ会社は8社10工場を数え、従業員は1万3,000人を超えていました。佐吉の精神を全従業員に徹底することの重要性を痛切に感じた首脳たちは、佐吉の5回目の命日にあたる1935年10月30日に「豊田綱領」を制定し、ここ栄生の地で発表します。日常の心構えとして明文化された佐吉の精神は、現在もトヨタグループ各社の社是、社訓として受け継がれています。

館内企画展アーカイブ
バーチャル展示室
THE VIRTUAL EXHIBITION ROOM 360

館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** › https://www.tcmit.org/360virtual/

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介するデジタルアーカイブです。

360 度 VR コンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。

トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。
Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.